

# 令和7年度第5回一関市水道事業経営審議会

日 時：令和8年1月27日（火）  
14時30分から16時30分  
場 所：脇田郷浄水場

## 次 第

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 議題

#### (1) 一関市水道事業ビジョン・経営戦略（案）について

① はじめに、第1章 一関市水道事業の概要

② 第2章 前水道事業ビジョン及び経営戦略の総括

③ 第3章 一関市水道事業の現状と課題

④ 第4章 将来の事業環境

⑤ 第5章 将来像と実現方策

⑥ 第6章 経営戦略

⑦ 第7章 進捗管理

#### (2) その他

### 4 その他

### 5 閉会

一関市水道事業経営審議会委員名簿

(敬称略/五十音順)

No.	氏名	フリガナ	備考
1	阿部 博之	アベ ヒロユキ	
2	荒木 克明	アラキ カツアキ	
3	石川 晃	イシカワ アキラ	
4	大浪 友子	オオナミ トモコ	
5	小野寺 敏彦	オノデラ トシヒコ	
6	小野寺 真奈美	オノデラ マナミ	
7	佐藤 愛理	サトウ アイリ	
8	佐藤 一利	サトウ カズトシ	
9	佐藤 誠	サトウ マコト	
10	高橋 系子	タカハシ ケイコ	
11	千葉 理恵	チバ リエ	
12	富永 敏弘	トミナガ トシヒロ	
13	二階堂 満	ニカイドウ ミツル	
14	蜂谷 幸夫	ハチヤ ユキオ	
15	山川 智美	ヤマカワ トモミ	

一関市水道事業経営審議会事務局名簿

No.	氏名	フリガナ	備考
1	伊東 吉光	イトウ ヨシミツ	上下水道部長
2	佐藤 耕一	サトウ コウイチ	上下水道部次長兼水道課長
3	阿部 正則	アベ マサノリ	上下水道部次長兼東部上下水道課長
4	小野寺 勝也	オノデラ カツヤ	経営総務課長
5	米田 理恵子	マイタ リエコ	経営総務課 課長補佐兼総務係長
6	畠山 博文	ハタケヤマ ヒロフミ	経営総務課 課長補佐兼水道経営係長
7	鈴木 文香	スズキ フミカ	経営総務課 水道経営係主査
8	小野寺 涼	オノデラ リョウ	経営総務課 水道経営係主事

# 令和7年度第5回一関市水道事業経営審議会

令和8年1月27日（火）

一関市上下水道部経営総務課

---

## 目次

---

01 第4回会議の振り返りと本日の会議の到達点について

---

02 一関市水道事業ビジョン・経営戦略（案）について

---

---

---

# 01 第4回会議の振り返りと 本日の会議の到達点について

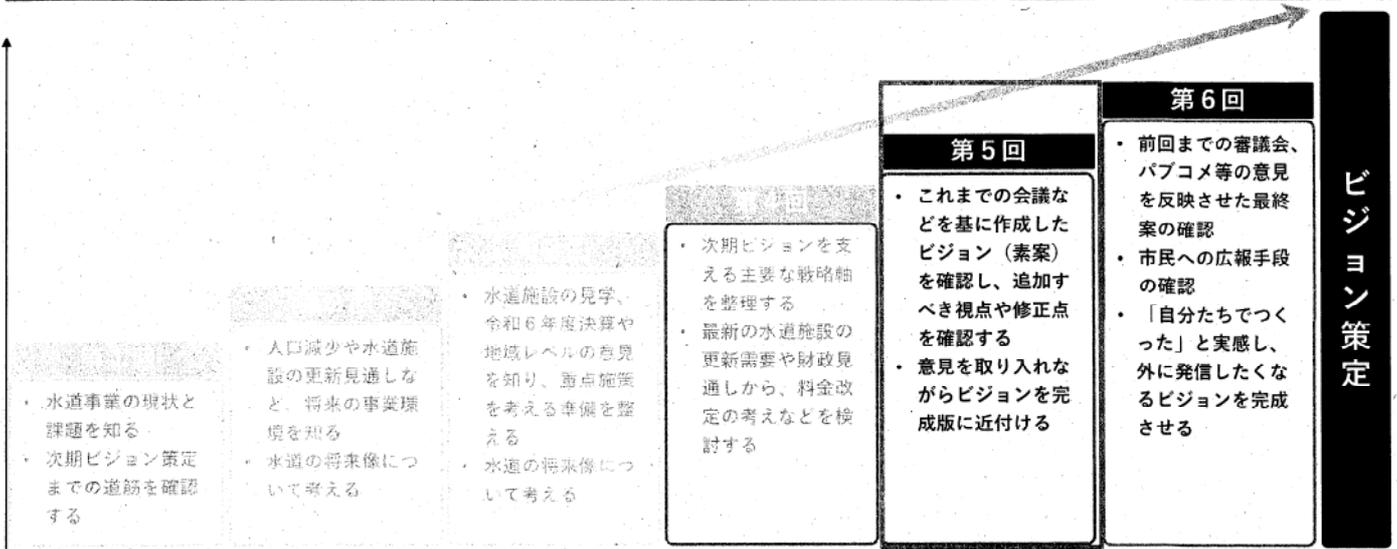
## 第4回会議の概要

### 内容

- |         |   |
|---------|---|
| 1 開催日時  | 令和7年11月11日（火）午後3時～午後4時40分   |
| 2 開催場所  | 一関市役所 大会議室  |
| 3 出席委員  | 8名（欠席7名）  |
| 4 議題    | (1) 将来像を実現させるための施策について<br>(2) 水道事業の将来見通しについて<br>(3) 水道料金の在り方について  |
| 5 主な質疑等 | <ul style="list-style-type: none"><li>耐震性貯水槽を、旧市町村単位に1個ずつ設置できないか。<br/>→ 施設の整備に合わせて、浄水能力を踏まえたうえで検討していく形で考えていきたい。</li><li>設備が古く直さなくてはならない状況なのか、資金的に厳しく疎かになっているか、それぞれ他市と比べた一関市の状況を教えて欲しい。<br/>→ 当市の立ち位置は、料金水準では県内他市に比べ二戸市に次いで2番目に高い水準に位置している。<br/>また、非常に多くの施設を抱え、年間更新費用が年間で約20億円掛かる試算が出ている。</li><li>市では水道料金は何割程度を上げないといけないと試算しているのか。<br/>→ 総括原価方式ではどの位の料金が必要か算定できる方式。ワークショップで、どこにいくら掛かっているか分からないという意見に対する答えとなる算定方式として紹介した。</li></ul> |

## ビジョン・経営戦略（素案）を完成版に近付ける

水道事業への理解



## 02 一関市水道事業ビジョン ・経営戦略（案）について

## 前 一関市水道事業ビジョン、前 経営戦略の概要

### ■ 前 一関市水道事業ビジョンの概要

現在の計画期間は、平成28年度から令和7年度まで。

人口減少に伴う水需要の減少、水道施設の更新需要の増加など、水道事業を取り巻く状況の変化に対応して「安全」「強靱」「持続」を将来像に掲げた新水道ビジョン（国の指針）が平成25年3月に公表されました。

一関市では国の指針に基づき、平成28年3月に「一関市水道事業ビジョン」を策定し、市民の生活や経済活動を支えてきた水道を今後も継続していくため、目指すべき将来像を具現化するための取組を掲げています。

### ■ 前 一関市水道事業経営戦略の概要

現在の計画期間は、平成29年度から令和8年度まで。

一関市の水道事業は、水道施設の更新需要の増加や人口減少による給水収益の減少などにより経営環境は厳しさを増しており、不断の経営健全化の取組が必要となっています。

経営の健全化の取組として、投資・財政計画や財源試算を盛り込んだ中長期的な経営の基本計画として「経営戦略」を掲げています。

## 一関市水道事業ビジョン・経営戦略（案）の概要

### 新しい「一関市水道事業ビジョン・経営戦略」の位置付けと計画期間（P.2）

- 一関市水道事業ビジョンは、「一関市総合計画」の基本的な方向に沿って策定する水道事業についての個別計画として位置付けるとともに、国土交通省が「新水道ビジョン」を推進するために全国の水道事業体に策定を求めている「水道事業ビジョン」として位置付けます。
- 一関市水道事業経営戦略は、総務省が各公営企業に策定を求めている「経営戦略」として位置付けます。
- 計画期間は、令和8年度から令和17年度までの10年間、目標年度は令和17年度としました。
- なお、今回策定する計画は、ビジョンにおける**施策目標**と経営戦略における**投資・財政計画**を一体的に推進するため、水道事業ビジョンと水道事業経営戦略をひとつの計画「一関市水道事業ビジョン・経営戦略」として、策定することとしました。

## 第1章 一関市水道事業の概要 (P.3~4)

- 1 一関市水道事業のあゆみ (主なできごと)
  - 一関市の水道事業は、昭和10年、旧一関市で給水を開始したのが始まり。その後、旧町村においても昭和30年前後に給水を開始。
  - 平成17年の市町村合併、平成23年の藤沢町との合併、平成29年の水道事業と簡易水道事業の統合を経て、現在は1つの水道事業として経営。
  - 平成30年に水道施設運転管理等業務の民間委託を開始。
  - 令和2年に水道料金徴収等窓口業務の民間委託を開始。

- 2 一関市水道事業の特徴

**特徴1** 給水面積が広大    **特徴2** 民家が点在    **特徴3** 水源が点在    **特徴4** 起伏が激しい

- 3 一関市水道事業の主なデータ (資料：デジタル庁 令和5年度決算時点)

- ・ 給水人口 93,549人    ・ 浄水場 33か所    ・ 配水池 93箇所    ・ 職員数30人
- ・ 家庭用水道料金 4,338円 (13ミリ・20㎡)、4,447円 (20ミリ・20㎡)



※上記以外のデータは、QRコードからデジタル庁のサイトで見ることができます。  
また、資料編 (P.70~P.75) でも一部を掲載しております。

## 第2章 前水道事業ビジョン及び経営戦略の総括 (P.5~17)

- 1 前水道事業ビジョン (平成28年度~令和7年度) の総括 ※P.5~16
  - 水道事業の将来像の実現方策として52件を実施し、次のとおり評価しました。
    - ・ 「安全」 ※P.5~ : 取組件数16件のうち、完了3件、順調12件、見直し1件
    - ・ 「強靱」 ※P.8~ : 取組件数9件のうち、完了1件、順調8件
    - ・ 「持続」 ※P.10~ : 取組件数27件のうち、完了6件、順調17件、見直し4件
  - 評価が完了の10項目及び見直しの5項目の取組を次のページで紹介いたします。
  - 概ね、順調に推移しましたが、給水区域の拡張方針や水道広報の在り方、水道料金の支払方法など、現状に合わせた見直しを図りました。
- 2 前水道事業経営戦略 (平成29年度~令和8年度) の総括 ※P.17
  - 中長期的な経営の基本計画「経営戦略」で目標に掲げた4項目の取組結果は、次のとおりとなりました。
    - ・ 極めて順調1件    ・ 順調1件    ・ 遅延2件
  - 目標に対する達成率が低いものの、改善は図られており、引き続き、経営の健全化を図るため、水道事業ビジョンに掲げる目標の安全、強靱、持続を達成できるよう取組を強化していきます。

## 第2章

### ■ 前水道事業ビジョンの実現方策で評価が完了の取組 (P.5~16)

将来像	大分類	中分類	取組
安全	(1) 安全な水の供給	⑥ ※P.7 鉛製給水管の解消	a 令和5年度までに市が管理する部分の鉛製給水管の全廃を目指し、令和5年度に全廃
		⑦ ※P.7 石綿セメント管の解消	a 令和5年度までに供用部分の石綿セメント管の全廃を目指し、令和4年度に全廃
強靱	(1) 災害対策	⑨ ※P.7 水安全計画の策定	a 平成29年度までに水安全計画を策定と定め、平成30年度に計画を策定
		② ※P.9 停電への備え	a 非常用発電機用貯油タンクの整備を進め、全30施設に設置
持続	(3) 経営の健全化	① ※P.12 水道事業と簡易水道事業の事業統合	a 平成28年度末に簡易水道事業を水道事業に統合を目指し、平成29年度に事業統合
		② ※P.12 公民連携（民間委託）の推進	a 浄水場の運転管理業務を委託することを目指し、平成30年度から開始 b 料金収納業務を委託することを目指し、令和2年度から開始
		④ ※P.13 業務の効率化	a 平成28年度末までにマッピングシステムを全ての地域に導入を目指し、平成28年度に全地域に導入 b 平成28年度末までに1か所で水道施設を監視できるシステムを構築することを目指し、平成28年度に脇田郷浄水場での監視体制を構築
		⑦ ※P.15 経営戦略の策定	a 平成30年度までに水道事業経営戦略を策定することを目指し、平成28年度に策定

## 第2章

### ■ 前水道事業ビジョンの実現方策で評価が見直しの取組 (P.5~16)

将来像	大分類	中分類	取組
安全	(2) 未普及地域における水供給	① ※P.7 未普及地域における水供給	a 長期的な財政状況を勘案しながら、未普及地域の解消に努める 未普及地域の解消は、水道施設整備計画（平成31年4月策定）で、①水道施設整備費が265万円以内/世帯、②対象地域で9割以上の世帯で利用が見込めること、③補助金・交付金事業が可能な場合とし、水道料金収入が十分に見込め投資効果が大きいことを考慮して整備することとしました
		② ※P.11 滞納対策	b 口座振替払いへの誘導策を検討する キャッシュレス決済など多様な支払方法が普及していること、年金支給月による納付書払い、分納での支払いなど、納付書利用者が一定数いることから、口座振替の利用者は頭打ちと捉えています ・口座振替への誘導策として令和3年度と令和4年度にキャンペーンを実施
持続	(2) 資金の確保	③ ※P.12 水道接続の促進	a 水道広報などで水道の安全性・安定性をPRし、水道への接続を促進する 令和6年度から、水道の新規接続に際し、本管まで距離が遠距離になる給水装置工事への補助制度を創設しました
			b 給水装置設置資金融資あっせん及び利子補給補助金制度を継続実施するなどして、水道に接続しようとする方を支援する 水道の新規接続に係る費用の融資あっせん及び利子補給は令和2年度の利子補給をもって新たな制度利用者がなく、要綱を廃止しました ・令和6年度から水道の新規接続に際し、本管まで距離が遠距離になる給水装置工事への補助制度を創設
持続	(3) 経営の健全化	⑤ ※P.14 お客様サービスの維持・向上	a わかりやすい内容で水道広報を発行する 広報いちのせきI-Styleに集約することとし、「いちのせきの水道」は令和2年3月号をもって発行を中止しました 水道に関する情報は必要に応じて市のホームページや広報いちのせきI-Styleの紙面を用いて情報提供を行っています

## 第3章 一関市水道事業の現状と課題 (P.18~32)

### 1 水需要

#### (1) 給水人口と給水量 ※P.18

- 令和元年度から令和5年度までの給水人口と給水量（有収水量）の推移は次の表のとおりです。
- 当市の給水人口及び給水量は、**市全体の人口減少に伴い減少傾向**にあります。

給水人口と給水量	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
給水人口（人）	100,343	98,812	97,094	95,279	93,549
給水量（万m3）	989	998	986	962	949

### 2 施設

#### (1) 水源・浄水場・配水池・ポンプ場 ※P.19

- 当市は、**起伏に富んだ広大な市域**に給水を行っているため、**大小含めて281施設**もの施設が点在しています。

施設種別/施設数	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢	合計
水源	10	3	9	1	4	3	3	9	42
浄水施設	6	2	7	2	4	2	2	7	32
配水池	23	6	11	8	9	6	7	23	93
ポンプ場	17	12	19	11	4	4	22	25	114
合計	56	23	46	22	21	15	34	64	281

令和7年3月31日現在

## 第3章

- 水道創設期に整備した施設は既に**法定耐用年数を経過**しています。
- 実質的な耐用年数は、法定耐用年数より長い場合が多く、適切な維持管理により当面使い続けることが可能であり、**計画的な施設更新**を進めていく必要があります。

#### (2) 水道管 ※P.19

- 水道管の総延長は約2,136km。当市の給水区域面積は、710.21km<sup>2</sup>（全国で9番目）であり、**非常に長い水道管延長**となっています。
- 高度経済成長期に布設した水道管は、既に法定耐用年数を経過しているものがあり、**老朽化による漏水事故**がたびたび発生。今後も計画的に更新を行っていく必要があります。

#### (3) 有収率 ※P.20

- 各配水池の配水量のうち、料金収入の対象になった水量の割合を示す**有収率は、全国や県平均を下回ります**。
- 地域別にみると、東山、花泉地域が市全体平均を大きく下回っている状況です。
- 今後も継続して漏水調査を行い、漏水している水道管を更新していくことが重要となってきます。

令和5年度地域別有収率（％）									
地域	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢	合計
有収率	84.8	66.2	84.8	87.5	58.3	77.0	71.7	87.0	80.2

### 第3章

#### 3 経営

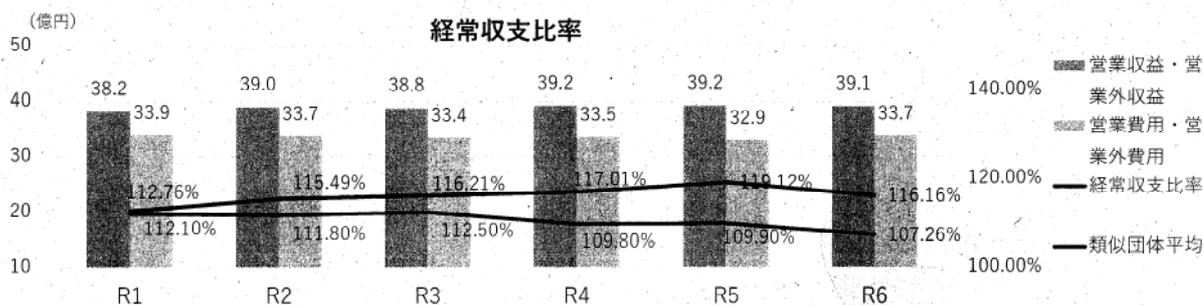
##### (1) 財務

##### ① 収益性 ※P.22

##### ■経常収支比率（（営業収益+営業外収益）÷（営業費用+営業外費用））

経常収支比率は、公営企業の収益性を判断する際の最も代表的な指標です。経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、これが100%未満であることは経常損失が生じていることを意味します。

当市の経常収支比率は、令和4年10月と令和6年4月に行った料金改定により、数値は一時的な上昇がありました。収益性の面で水需要の動向を見ながら適正な料金体系となるよう、水道料金の見直しが必要です。



### 第3章

#### 4 サービス

##### (1) 給水の状況 ※P.27

令和5年度末の各地域の給水の状況は次のとおりです。

地域	人口(人) A	給水人口(人) B	普及率(%) B÷A×100
一関	53,475	51,206	95.7
花泉	11,729	11,638	99.2
大東	11,646	7,863	67.5
千厩	9,590	6,959	72.6
東山	5,752	5,103	88.7
室根	4,287	1,644	38.3
川崎	3,203	3,175	99.1
藤沢	6,933	6,777	97.7
合計	106,815	94,365	88.5

【参考】令和5年度普及率：岩手県92.4%、全国98.2%

※未普及地域：令和6年3月31日現在の市全体の普及率は、88.5%で全国平均や県平均を下回っています。

地域別では、室根・大東・千厩地域が従前からの水源の問題などにより普及率が低くなっています。

## 第4章 将来の事業環境 (P.33~36)

当市の将来の事業環境を予測すると、**人口減少と施設の老朽化**への対策を講じなくてはなりません。

- 一関市の人口は、昭和30年をピークに減少し続けており、今後も少子高齢化の進行と東京一極集中により、更に減少していくことが見込まれています。
- 一関市人口ビジョン（令和7年10月改訂版）における将来展望人口を基に予測した給水人口では、簡易水道事業と統合し現体制となった平成29年度の103,650人をピークに、令和37年度には50,425人まで減少する見込みです。
- 法定耐用年数を超過した水道管の割合は19.71%、水道施設数は281施設です。水道創設期に整備した施設は既に法定耐用年数を経過している状況です。

### 1 人口減少により想定されるリスク

#### (1) 水需要及び給水収益の減少 ※P.34

- 有収水量は令和37年度には、661万4,000<sup>m</sup>（ピークは平成29年度の1,001万7,000<sup>m</sup>）
- 給水収益は令和37年度には、18億2,000万円（ピークは令和6年度の24億8,400万円）になる見込みです。

#### (2) 施設利用率の低下 ※P.35

- 人口減少に伴い水需要は減少。施設の供給能力は現状に比べて過大となっています。
- このため、施設の利用率は50%台で推移しており、今後、人口減少の進行により、施設利用率の低下が見込まれます。

## 第4章

#### (3) 水道事業の担い手の減少 ※P.35

- 当市の職員数は組織体制の見直し等により減少しており、水道部門においても相当数の職員が減少しています。
- 今後の水道事業は「新しい施設をつくる時代」から「既存の施設を適切に、維持・更新していく時代」へと移行しており、技術的基盤を踏まえた上で、適正規模を意識した施設更新計画の策定とその着実な実行が求められます。
- 一方で、熟練の技術や経験を有する職員の退職が進み、技術を継承する人材の確保が困難となっている。その結果、複数の業務を兼務する職員が増加し、施設更新計画の前提となる詳細な技術的・財政的検討の遂行に支障をきたすことが懸念されます。

### 2 施設の老朽化 ※P.36

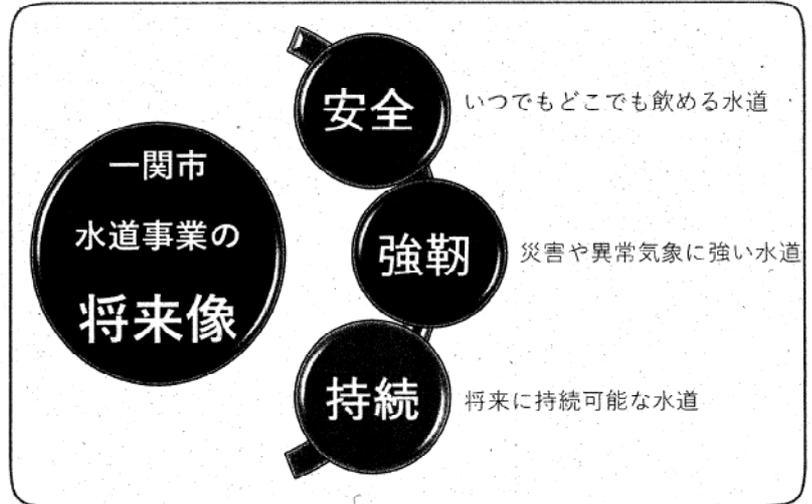
- 当市では、法定耐用年数を超過した水道管の割合（19.71%）は、**全国平均（25.37%）に比べ低いもの**、高度経済成長期に整備した管路が一齐に法定耐用年数を迎えることから、優先順位をつけながら布設替工事を行っていきます。
- 老朽化対策としての更新事業を進めるためには、適正な資金の確保が必要になりますが、人口減少に伴う給水量減少などの外部環境の変化により、現在の料金水準では必要な資金を確保することが困難な状況になってくることが予想されます。

## 第5章 将来像と実現方策 (P.37~55)

### 一関市水道事業の将来像 ※P.37

これまで市民生活や市内の経済活動を支えてきた水道を今後も安定的に持続していくため、『安全』『強靱』『持続』の将来像を掲げ、この将来像の実現方策を実施していきます。

次のページでは、施策体系表、43件の取組（見直し8件、新規5件）のうち、**新規及び見直しと位置付けた取組項目の一部、指標を定めて取り組む項目**を紹介します。



## 第5章

### 施策体系 新規の取組5件、見直しの取組8件 (P.38)

	基本目標	大分類	中分類	新規	見直し
安全	いつでもどこでも飲める水道	01 安全な水の供給	01 水源における水質管理		
			02 水源水質事故対策		
			03 気候変動への対応		●
			04 浄水場における水質管理		
			05 送水、配水及び給水における水質管理		
			06 水質検査		
			07 指定給水装置工事事業者のレベルアップ		
		02 未普及地域における生活用水の確保	01 多様な手法での支援		
		03 小規模水道の安全確保	01 簡易専用水道の管理		
			02 専用水道の管理		
強靱	災害や異常気象に強い水道	01 災害対策	01 水道施設の耐震化		
			02 停電への備え		●
			03 復旧の迅速化と応急給水への備え		
			04 広域的な危機管理体制の強化		

## 第5章

	基本目標	大分類	中分類	新規	見直し
持続	将来に持続可能な水道	01 効率的な資産管理	01 水道施設の計画的な更新		●
		02 協働の推進と理解醸成	01 広聴活動の充実		●
			02 広報活動の充実		●
		03 資金の確保	01 水道料金の最適化		●
			02 滞納対策		
			03 水道接続の促進		●
			04 利用者負担の適正化	●	
		04 経営の健全化	01 組織・職員体制の強化	●	●
			02 公民連携の推進	●	
			03 お客様サービスの維持・向上	●	
			04 業務の効率化		●
			05 有収率の向上		
			06 広域化の検討		
		05 環境への配慮	01 省エネルギー対策、再生可能エネルギーの導入		
			02 浄水発生土の有効利用		

## 第5章

### 施策体系で新規・見直して位置付けた取組項目・指標を定めて取り組む項目（P.39～55）

#### ◆ 新規に位置付けた取組項目

##### 1 安全 ～ 01 安全な水の供給 ～ 03 気候変動への対応 ※P.40

- **取組** … 濁水による水質の悪化に備えるため、水安全計画及び応急給水・応急復旧計画マニュアルに基づき、安全でおいしい水の供給に努める。
- **目指す姿** … 少雨により水源に濁水が発生した場合でも、安心して安全な水道水を供給

##### 2 持続 ～ 03 安全な水の供給 ～ 04 利用者負担の適正化 ※P.50

- **取組** … コスト増への対応と利用者間の公平性を図るため、納付書発行手数料の導入を検討します。
- **目指す姿** … 水道サービスの維持に必要なコストを公平かつ透明にお客様へ反映し、過度な負担を避けつつ持続可能な経営を確保

##### 3 持続 ～ 04 経営の健全化 ～ 01 組織・職員体制の強化 ※P.51

- **取組** … 水道技術（ノウハウ）の継承・レベルアップや広い視野を身に付けるなど職員の能力向上を図る。
- **目指す姿** … 効率的で柔軟な組織体制と高度な技術・知識を備えた人材を育成・配置し、災害対応や将来課題にも的確に対応できる強靱な事業体の構築

## 第5章

### 4 持続 ～ 04 経営の健全化 ～ 02 公民連携の推進 ※P.51

- 取組 … WPPP（管理・更新一体マネジメント方式）の導入について検討します。
- 目指す姿 … お客様サービスの水準を可能な限り維持することに留意しながら、経費の節減を意識し、業務の継続のため公民連携（民間委託）の推進

### 5 持続 ～ 04 経営の健全化 ～ 03 お客様サービスの維持・向上 ※P.52

- 取組 … 窓口業務等の受託事業者との情報共有や業務の検証を通じてお客様サービスの向上を図ります。
- 目指す姿 … お客様サービスの水準を可能な限り維持することに留意しながら、経費の節減、危機管理能力の維持・向上及び技術の継承のため、効率的な組織づくりの推進

#### ◆ 指標を定めて取り組む項目 ※P.55

将来像	取組	指標	現状 (2024)	中間目標 (2030)	目標 (2035)
安全	水源の水質事故件数	水源の水質事故数	0件	0件	0件
強靱	水道施設の耐震化率	水道基幹管路耐震化率	36.70%	37.00%	37.9%
持続	有収率の向上	有収率	80.04%	82.77%	85.5%

## 第5章

#### ◆ 見直して位置付けた取組項目（一部）

### 1 強靱 ～ 01 災害対策 ～ 02 停電への備え ※P.45

- 取組 … 非常用発電機等を定期的に点検し、必要に応じて更新します。
- 目指す姿 … 非常用電源や多重化によって停電時でも水道施設を機能させ、お客様に安定した水道水の供給を継続

### 2 持続 ～ 02 協働の推進と理解醸成 ～ 02 広報活動の充実 ※P.48

- 取組 … ホームページの更新、水道週間の充実に加え、新たな広報手法を検討します。
- 目指す姿 … 水道事業の取組や水の安全性を分かりやすく伝え、市民に親しみやすく信頼される情報発信を行うことで、水道についての認識を深める

### 3 持続 ～ 03 資金の確保 ～ 01 水道料金の最適化 ※P.49

- 取組 … 内部留保資金10億円を確保しつつ、総括原価方式を基本とした水道料金水準により、料金算定期間（3年から5年）ごとに水道料金の見直しを行います。
- 目指す姿 … 持続可能な経営を確保しつつ、お客様に過度な負担をかけない公平で透明性の高い料金体系を構築し、安定した水道水の供給と将来世代への責任の両立

## 第6章 経営戦略 (P.57~59)

### 経営の基本方針 ※P.59

厳しい財政状況の中でも本計画を着実に推進し、持続可能な経営を維持するため、次の3つの考え方にに基づき、健全かつ安定的な財政運営を進めていきます。

考え方	指標	現状 (2024)	中間目標 (2030)	目標 (2035)	基本方針
施設配置の最適化	施設利用率	52.0%	56.3%	60.0%	水需要やまちづくりの変化に応じた施設のダウンサイジングや配置の最適化を図ります
企業債残高の縮減	企業債残高	227.5億円	167.2億円	129.4億円	着実に企業債残高を削減させることで、将来世代へ負担を先送りすることがないように公平化を図ります
適正な料金収入の確保	内部留保資金	12.3億円	10億円	10億円	料金算定期間と適切な資産維持費を算入した総括原価方式を導入し、水道事業の健全な運営を目指します

## 第7章 進捗管理 (フォローアップ) (P.61)

本ビジョンに掲げた目標の達成に向けて取組を着実に実行していくため、毎年度、決算、予算編成のタイミングで、各取組の進捗状況を把握し、課題や改善点などが生じている場合は、翌年度の事業に反映します。

中間目標年度である2030年度の進捗状況や評価結果は、一関市水道事業経営審議会に報告するとともに、市民に対しても一関市ホームページで公表します。

